

老化と長寿

ジューローム エリソング

何歳まで生きたいか、今選べと言われたら
どうだろう。80歳？100歳？120歳？もしそ
の年齢になつたら気が変わると思うだろうか。

何万年前、人の寿命はとても短か。だが、
技術が進歩するにつれ、寿命はどんどん長く
なつた。現在の人々は、かつてないほど健康で
長生きするようになった。しかし、このこと
は予期しない問題も出てきた。老後は病気の
介護の必要が増すばかりだ。私たちはおそろ
く病院で亡くなるが、それだけではなく、私
たちの愛する人にも同じことが起こる恐れが
ある。

だが、多分これを解決できるだろう。病気に
関しては、治すことよりも予防について対策
を考えるほうが良い。肺がんになつてから化
学療法をするより、最初からタバコを吸わな
いほうが良かった。つまり病気の原因を撲滅す
ることだ。

さて、死の原因は何だろうか。答えは老化のプロセスだ。要するに、老化の原因は生物学的ではなく、物理的なものなのだ。自動車も使い続けられれば、金属は擦り減り、錆び、ゴムにひびが入り、といく。これと同様に我々の体も、数えきれないほどの小さな物理的原因ですり減ってゆくのだ。空気や太陽の紫外線など、それらを修理する仕組みはたくさんあるが、年を取るにつれとだんだん働きが落ちる。骨や筋肉は弱くなり、皮膚にはしわが増え、免疫も弱くなる。記憶は失われ、感覚も衰える。私たちは年寄りになるから死ぬのではない、むしろ、重要なパーツが壊れるからまたは古くなると、たがら死ぬのである。歳をとるほど傷つき、もろくなり、病気にかかりやすくなる、とついには死んでしまうのだ。

ここ数年、長寿研究は空前の進歩を遂げた。今、老化の背後に潜むメカニズムと、それを操作する方法が解明されつつある。老化は神秘的でも不可避でもなく、止めたり遅らせた

りできる可能性がある。しかし、それが可能だとして、老化を止めるのは良いことなのか。老化を止めたり寿命を伸ばすことに対する不安もある。我々は生まれ、歳を取り、そして死ぬ。人類の起源からこれは周知の事実だ。歳をとることは良いことだった。長生きして老年に達したことを英語圏でゴールドデンイヤーといって祝う。でも実際のところ、みんな長生きはしたいが老人になりたいわけじゃない。なぜなら、歳を取り過ぎてしまったら、老化を止めることにも意味がなくなるからだ。例えば、90歳の人には、老化を止めるのには遅すぎる。内部にダメージが多すぎて、病気に対して弱点だらけなのだ。だから寿命の延長とは歳を止めるではなく、病気をなくし、寿命の限界を打破することなのだ。どれほど寿命を延長できるかはまだ分からないが、現在の最長寿命である120歳程度までなのか、あるいは無期限に伸ばせるのか。現時点では誰

にも分からない。

しかし、仮にそれが可能だとして、そうすべしなのかい？ 実は、「寿命の延長」とは「医療の別名」に過ぎない。現在の医師がしていることは、生命を延長し、苦痛を最小にすることだ。医療資源のほとんどは加齢の影響に使われる。人々の生涯医療費のほぼ半分は老年期に費やされ、残りの3分の1は中年の間で費やされる。寿命の延長なら既にやっっているのだ。ただ効率はずっと悪い。老化を止めることは、心臓移植やがんの化学療法とくらべても、不自然というわけではない。現在の人間のすることはどれも自然とは言えないが、その結果、我々は最高水準の生活を楽しめるのだ。私たちが今やっていることは、機械が壊れて手遅れになるまで待ち、そしていざれが×になるにしても、直すだけ修理することに資源の大部分を費やしているということだ。しかし、寿命の延長は依然として思い上がった感じを与える。ほとんどの人は一定の

年齢に達すれば死ぬべきだと考えといる。死
を回避するという考えが多くの人と、不
快であるのも理解できる。

しかし、もしあなたや愛する人達がさらに
100年か200年、健康で暮らせる世界が来た
ら、私たちはどう変わるのだろうか。今より長
く生きると分かると、地球のことをもっと
大事にするだろうか。どれくらい時間を学ぶ
ことに費やするだろうか。多くの人が感じている
プレッシャーやストレスは良くなるのか悪く
なるのか？

さて、もう一度問おう。家族や友人とともに
健康のまま、あなたは何歳まで生きたいの
か。将来はどうかあればいいのだろうか。